

特別展「山水画と風景画のあいだ—真景図の近代」
会話で学ぼう！ 展覧会のみかた
プロローグ「山水画・文人画・真景図って何？」



展覧会のタイトルにある山水画ってどういうものですか？



主に水墨で自然の風景を描いた絵のことでござるよ。中国から日本に紹介されて広まったのだ。日本では山水画が主流であったのござる。



風景画とどこが違うんでしょう？



風景画は西洋で始まったんだ。油絵や水彩で描いていて、写真みたいに本物そっくりの景色が描かれるだろう。山水画は墨で描くからここまで写実的に描くのは難しそうだな。



そうじゃ。山水画では「胸中丘壑」といって、目の前の光景を一度自らの中に取り込んで、心に浮かんだ景色を構築して理想的な風景を表そうとしたのじゃ。



山水画は心のイメージを再現するんですね。玉堂さんや竹田さんたち文人画家も、山水画を描いていたんですね。じゃあ、文人画ってなんですか？



文人画は南宗画とも言って、中国・明末の黄其昌という画家が言い出した概念じゃ。元々は職業画家と区別される教養人が描いた画のことだったのじゃが、しだいに様式(絵の特徴)を表すようになって、規則にとらわれずに自由な筆遣いで描いた絵を文人画とか南画と呼ぶようになったのじゃよ。これが江戸時代に日本中で大流行して明治まで続くのじゃ。



なるほど～。そういえば、真景図というものもありますね。これはどういう意味でしょう？



よくぞ聞いてくれた。われら文人画家たちがこの真景図を始めたのござる。真景図なるものは、日本の特定の場所の写生に基づいた山水画のことぞよ。それまでは中国の絵の手本を写すことが多く、山水画がマンネリ化していたのだ。



そのとおりじゃ。竹田君や池大雅さんら文人画家の描いた真景図をきっかけに、日本では山水画から風景画にうつり変わっていったんじゃよ。